

教員採用試験1発合格者が教える！！

教員採用試験対策 1次試験編

筆者は令和3年度沖縄県教員採用試験(中学:英語)を受験し、予備校なしで一次試験14位通過、二次試験1位通過の成績で現役合格を果たしました。このガイドでは教員採用試験の合格を目指す方向けに、筆者なりの試験対策を順序立てて紹介します！

1. 試験内容を熟知する

まずは自分が受ける試験の内容をしっかりと把握しておきましょう。一次試験は90点満点の教養試験（一般教養+教職教養）と180点満点の専門試験からなっています。また、一般教養や教職教養の詳しい中身（出題範囲）も抑えておく必要があります。

2. 目標を設定する

沖縄県の教員採用試験は合格最低点を公表していません。予備校などはデータの蓄積があるかもしれませんが、予備校なしでの合格を目指すなら同教科、同校種を受験したことのある先輩などを自らあたり、大体でいいので合格のための目標点を決めましょう。

3. 教職教養を固める（1）

多くの人が最も時間をかけて勉強するのは教職教養です。主な出題は、教育法規、教育原理、学習指導要領、教育心理学、教育史ですが、個人的に狙い目は「教育原理・教育心理学・教育史」だと思っています。教育法規や学習指導要領も捨ててはいけませんが、これらは量が膨大な上に、条文の丸暗記が求められますので努力が点数に反映されるまでに時間がかかります。手っ取り早く点数を伸ばすのであれば知識が概ね1対1の関係にある「教育原理・教育心理学・教育史」が最適です。知識が1対1であるとは、例えば「フロイトー自由連想法」のように、覚えるべきキーワードをペアで覚えておけば点数に繋がるということです。私は過去問や参考書等からキーワードを見つけて単語帳を作って学習しました。

4. 教職教養を固める（2）

教育法規、学習指導要領は量が膨大で学習が大変ではありますが、結構な量が出題されますので、絶対に捨てられません。学習指導要領解説はとても安いので、自身の教科（全校種）、総則（全校種）、道徳（小・中）、特別支援学校、生徒指導提要は最低限揃えておきましょう。教育法規も同様に、最新の教育六法を1つ購入しておきましょう。私はこれらの勉強は、過去問を解いて間違えたカ所の条文、文言を都度確認するという風に行っていました。

5. 教職教養を固める (3)

沖縄の教員採用試験は地域特有問題として、県がリリースしている資料からいくつかの出題があります。県の施策や県が出している教育関係の資料はチェックしておきましょう。以下は私がチェックした方がいいと思う資料です。

1. 沖縄県教育大綱
2. 最新年度版学校教育における指導の努力点
3. わかる授業Support Guide
4. 沖縄21世紀ビジョン基本計画
5. 沖縄県教育振興基本計画
6. 沖縄県いじめ防止基本方針
7. 沖縄県学力向上推進5か年プラン・プロジェクトII～学びの質を高める授業改善・学校改善～
8. 沖縄県教育情報科基本計画

6. 一般教養を捨てない (1)

一般教養はで高校初級レベルの全教科が出題されます（国語は年によって難易度のバラつきあり、数学は中学レベル）。何が出題されるか予想ができないため、全く対策をせずに一般教養に臨む受験生もいると聞きます。しかし、所詮は高校基礎レベルです。5教科7科目を受験して琉球大学に入学した学生なら、少しの復習である程度思い出すことも可能でしょう。少しでも思い出した状態と完全なゼロとでは得られる結果に大きな差が生じます。私は対策として、高校時代に使用していた物化地生基礎の教科書にひと通り目を通しました（高校では物理は選択していなかったので教科書販売店で購入しました）。地歴公民は時間的な問題で復習できませんでした。ただし、地歴公民はボリュームが大き過ぎたり、内容が変化したりするので対費用効果が理科系科目に比べ低いように思われます。

7. 一般教養を捨てない (2)

一般教養の中には沖縄特有問題が含まれ、そこでは沖縄の地理歴史文化が問われます。範囲は非常に狭いため、分からない問題であったとしても少し勉強していると消去法でどうにかなる場合が多いです。私は過去問を解いてそこに出てきた偉人、琉歌、歴史書、遺産などを単語帳を使って覚えました。

8. 加点項目をチェックする

沖縄県の教員採用試験には加点制度があります。特定の資格や経験を持つ受験生は一次試験の点数に5~20点の加点が与えられます。受験する校種や教科によって加点の条件は異なりますが、例えば英語系の資格試験や図書館司書の免許などが加点の対象となります。ただし、英語系の資格試験には2年以内を取得したものに限りという制約があります。詳しくは「沖縄県立学校教員候補者選考試験実施要項」を確認して下さい。